

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.49 ◇◆

2012年9月28日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

今号は、定期配信の最終号となりますが、引き続き臨時号の配信を行います。配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

◆◆ INDEX ◆◆

1. 領域総括からのご挨拶
2. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
3. 犯罪からの子どもの安全レポート
第5回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
新たな協働に向けて-13の成果と7つの提言-
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
 - ・国の取組み情報
 - ・イベント情報
5. 編集後記

◆◆◆◆

秋分の日を過ぎ、厳しい残暑も和らぎ、少しずつ秋らしい気候になってきました。

兼ねてよりご案内しておりました、当領域主催の第5回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムを、9月15日に無事に開催することが出来ました。ご来場いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。当日の様子については、レポートにてお伝えいたしますので、是非ご覧下さい。

先月号のメルマガで、文部科学省が「子ども安全対策支援室」を設置したことをお伝えしましたが、同省より、「いじめ、学校安全等に関する総合的な取組方針」が取りまとめられました。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shienshitsu/1325363.htm

この方針では、子どもの育成を図っていく上で、その生命・身体を守ることは

極めて重要であり、社会全体が一丸となって問題に取り組んでいくことが必要であるとし、いじめ問題への対応強化に加え、学校安全の推進、体育活動中の安全確保が盛り込まれています。

いじめについては、どの学校、子どもにも起こり得るものとして、未然防止の取組みから早期発見、迅速な対応を可能とするような体制の強化などが掲げられています。多様な専門家を「いじめ問題アドバイザー（仮称）」として委嘱するのもその一つです。また、犯罪行為にあたる可能性があるとの認識の下、学校と警察の連携強化を図ることも盛り込まれました。

また、本メルマガで何度かお伝えしてきた、「大阪府子どもを性犯罪から守る条例」。18歳未満の子どもに対する性犯罪の前科者に、住所などの届け出を義務付ける全国初の条例です。10月1日の施行を前に、法務省では、対象者の同意があった場合に限り、罪名と刑期の終了日について、府からの照会に応じることを決めたとの報道がありました。法務省では、他の自治体で同様の条例ができれば協力を検討するとも報道され、今後の動きが注目されます。

大阪府子どもを性犯罪から守る条例

<http://www.pref.osaka.jp/chiantaisaku/seihanzaitaisaku/index.html>

本領域の取組みにとどまらず、犯罪からの子どもの安全に関わる様々な情報をお届けしてきた本メルマガですが、今月末で領域の活動が終了するのに伴い、定期的な配信は本号で最後とすることとなりました。少しでも皆様のお役に立てる情報をお届けすることができたならば、幸いです。尚、領域からの提言最終版の公開など、臨時号は適宜配信させていただきたいと思えます。

続いては、ご愛読に感謝の気持ちをこめて、領域総括から皆様にご挨拶を申し上げます。今月号も、最後までお楽しみ下さい。

1. 領域総括からのご挨拶

「これが最後のご挨拶」

私たちの研究領域「犯罪からの子どもの安全」が発信し続けてきたメルマガも本号をもって定期的な配信は終了します。

領域がどんな活動をし、採択したプロジェクトがどんな成果を挙げつつあるかを、この問題に興味を持ってくださる方々に直接的にお伝えしたい。私たちがメルマガを発行し始めた理由はここにあります。創刊号は、2008年9月24日、301人に発信しました。本号は第49号、毎月1回の発行ですから、4年以上発信し続けてきたこととなります。

メルマガとウェブサイトは、私たちにとってもっとも直接的な広報の両輪でした。ウェブサイトには、プロジェクトの年度報告書などの公的な報告やプロジェクトの進捗状況を担当者が具体的にレポートした記事などを掲載し、一方、メルマガのほうでは、領域活動の周辺で起こった事柄を読みやすい形で提供してきました。

おかげさまで、前号の48号の配信数は1,294件、配信を始めたときの4倍までに増えました。

もう毎月のメルマガは発信されません。領域のウェブサイトは、スタイルを一新して維持していきませんが、ここにも新しい情報が加わることはほとんどなくなります。しかし、49回にわたって発信し続けたすべての既刊のメルマガは、ウェブサイト上で読むことができます。本領域の活動に興味はあったものの、メルマガをフォローしなかった方々は、新しいウェブサイト上で過去の領域の流れにもう一度触れていただければ幸いです。

領域総括 片山 恒雄

2. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

今月は、最終号ということで、全13プロジェクトの社会での実装・普及に向けた取組みの現状や今後について、ご紹介したいと思います。

まずはイベント開催予定の「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトから。本プロジェクトでは成果を社会に還元するために、一般社団法人「子ども安全まちづくりパートナーズ」を立ち上げ、安全まちづくりの支援を今後も行なって参ります。そのキックオフ・カンファレンスを10月11日に開催する予定です。

<http://kodomo-anzen.org/activitys/activityslist/784/>

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」プロジェクトでは、堺市立東文化会館を拠点に、研究実施期間中に立ち上げたコミュニティFM局やWEBサイト、さまざまな地域活動を通じて、人をつなぎ、地域をつなぎ、安全なまちづくりに取り組んでいます。10月からは、ラジオのパーソナリティに中学生も加わります。活動を通じて、見守る人・見守られる人という図式をなくし、子どもが大人に元気を与えていくような、そんな地域社会をめざします。

<http://www3.ocn.ne.jp/~buntaro/bunkahall/>

「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」では、防犯リーダーを育むための地域での自主研修の進め方やテキスト、防犯用語辞典、ビデオ教材等をWEBサイトで提供しています。テキスト等の教材は、すでに延べ1万部を超えるダウンロードがあり、地域の学習会や大学主催の研修会でもご活用いただいています。今後も提供を続けますので、是非ご活用ください。

<http://www.kids-bouhan.jp/>

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトでは、前回のメルマガでもお伝えしたとおり、代表者が日本学術会議主催学術フォーラム「データと発見—Data Intensive Scientific Discovery」に登壇しました。また、任意団体「予防犯罪学推進協議会」を立ち上げ、WEBサイトを通じて、地域の実態を把握し防犯活動に活かすためのツールやマニュアルといった成果物の公開や情報提供を続けています。

<http://www.skre.jp>

「犯罪からの子どもの安全を目指した e-learning システムの開発」プロジェクトでは、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターを中心に、安全教育研究会を発足して今後も教材の開発を進めるとともに、研修会の開催や日本国際ナショナルセーフスクール認証センターと連携して、成果の実装・普及に取り組んでいきます。

<http://nmssc.osaka-kyoiku.ac.jp/>

「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」プロジェクトでは、ネットパトロールを支援するために開発した CISS (Civil Instructor Support System) の本格的な運用に向けて、個人情報保護やプライバシーなど法的側面からの検討を加えたガイドラインの作成を進め、NPO 法人青少年メディア研究協会が中心となって実装・普及に努めていきます。

<http://www.ams.vg/>

「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトでは、面接のガイドラインや訓練プログラムに関する情報を WEB サイトで発信しています。今後は、これまでの蓄積を基に、科学研究費補助金「新学術領域研究」『法と人間科学』のプロジェクト「子どもへの司法面接：面接法の改善とその評価」で、研究を続けていきます。

<http://child.let.hokudai.ac.jp/>

<http://law-human.let.hokudai.ac.jp/>

「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトでは、児童相談所や、病院、保育所等へ、開発した虐待診断支援ソフトウェア／シートを配布するとともに、虐待かどうかの判別を支援する相談窓口を設置しています。今後も、本プロジェクトで築いた多様な分野の専門家のネットワークを活かし、協働を進めていきます。

<http://www.cipec.jp/ipert/jp/>

「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」プロジェクトでは、成果に関する図書の出版準備を進めています (2013 年 3 月刊行予定)。また、プロジェクトを発展させ、科学研究費補助金基盤研究 (C) 『子どもの非行・虐待防止のための地域社会ネットワークの実証的研究』を進めています。

http://www.waseda.jp/prj-wipss/kaken_index.html

「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」プロジェクトでは、書籍の出版や教員向け研修会の開催等を通じて、開発した社会性と情動の学習プログラム (Social and Emotional Learning : SEL-8S/8D) の普及に努めています。当センターの「研究開発成果実装支援プログラム」での採択が決定し、社会実装に向けて取組みを進めていきます。

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/index.html>

<http://www.jst.go.jp/pr/info/info914/index.html>

「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトでは、発達・知的障害児の加害や再犯の予防に向け、開発した心理社会的プログラムをより広く支援者らに提供していけるよう、支援者セミナーを来年 1~3 月に計画しています。

NPO 法人アスペ・エルデの会や、プロジェクトの取組みが認められて浜松医科大学子どものこころの発達研究センターに今年度から開設された触法行為関連学講座を中心に、取組みや研究を進めていきます。

<http://www.as-japan.jp/j/>

<http://rccmd.org/>

「子どもの犯罪に関わる電子掲示板記事の収集・監視手法の検討」プロジェクトでは、ネット上の有害情報を自動判定する技術や隠語を自動収集するツール、ネットパトロール支援ツールなどの成果を、株式会社関西総合情報研究所にて提供しています。研究成果の社会実装として、ネットパトロール関連の NPO 団体との連携も試みています。成果の利用についてのご要望がございましたら、下記 WEB サイトをご覧ください。是非ともご連絡ください。

<http://www.kansai-labo.co.jp>

「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」プロジェクトでは、まとめとなる WEB サイトを作成中です。また、コンソーシアムを設立し、小学校や地域、自治体等での防犯演劇ワークショップの普及に向けて取り組む予定です。ワークショップの計画・実施を担うコミュニケーションティーチャーの育成にも取り組んでいきます。

<http://hiratapj.web.fc2.com/>

この 9 月末で全プロジェクトの研究実施期間が終了を迎えます。最終的な報告書や事後評価結果は、WEB サイトを通じて皆さまにお伝えする予定です。

領域の活動も 9 月末で終了します。これから来年 3 月までの間、シンポジウムでも討論を行った領域からの提言を、最終的なものに作り上げ、発信する予定です。また、領域も外部評価委員会による事後評価を受けることとなります。

領域やプロジェクトとしての活動は終了しても、ここで生み出された成果の社会実装や研究の更なる発展に向けて、領域関係者は今後も取組みを進めて参ります。皆様、今後どうぞ宜しくお願い申し上げます！

さて、最後にお知らせです。領域では各プロジェクトの成果をまとめた冊子を作成しました。この成果集をご希望の方は、「c-info@anzen-kodomo.jp」宛てにご連絡下さい。

※冊子代金、送料、共に無料です。

※題名に「成果集希望」と明記の上、お名前、ご住所、電話番号、E-Mail アドレス、希望部数をお知らせ下さい。確認の上、ご対応させていただきます。

※数に限りがございますので、なくなり次第終了とさせていただきます。

3. 犯罪からの子どもの安全レポート

- 第 5 回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
新たな協働に向けて・13 の成果と 7 つの提言ー

2012年9月15日 アキバホール（東京都千代田区）
主催：「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

平成19年度にスタートした当研究開発領域も、この9月末で終了を迎えます。6年にわたり全13のプロジェクトの様々な分野の人々が協働し、「犯罪からの子どもの安全」を目指して多様な取組みを進めてきました。この間の取り組みの成果を皆さまにお伝えするべく都内にて開催した、第5回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム。

今回のシンポジウムでは、全13プロジェクトの成果を3つの分科会に分けて紹介しました。その後は、これまでの取組みから見えてきた課題等について、領域としての提言（案）としてまとめて発信し、討論を行いました。また、各プロジェクトの成果展示コーナーを設け、ポスターや冊子、開発したシステムなどを紹介。熱心にブースの資料を手取る姿や、プロジェクトの関係者と話し込む姿が見られました。

前半の分科会は、「家庭や学校で支え育てる」「地域と共に見守り育む」「社会的な取組みに活かす」という大きく3つのテーマに分かれて行いました。皆様それぞれの関心に応じて、はしごをする姿も。

シンポジウムではアンケートを実施し、良かったと思う講演や、使ってみたいプロジェクトの成果を3つ選んでいただきました。1番多くの回答を得たのが、「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクト。「司法面接」という定量的評価が困難な課題に、科学的根拠に基づく研究成果を上げていた、「既に1,000名近い研修実績があり、どういった技法が有効か、一定にしめされている」というように、科学的・社会的な側面から評価をいただきました。

続いて、「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」、「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」、「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」の3プロジェクト。

理由としては上記の順に、「子どもの直感的な安全意識を高めること、教育プログラムとしていくことが非常に大切だと共感できた」、「ネット社会の安全性の議論は、子どもを隔離するのが従来型のやり方であったものに対して、新しいと感じた」、「身体的虐待の部位は、絶対に必要なデータ。（中略）国が主体となってよいものと思われる」などの声をいただきました。

上記3プロジェクトと一票差だったのが、「子どもの犯罪に関わる電子掲示板記事の収集・監視手法の検討」プロジェクトです。「精度を高めていけば（中略）予防策として極めて有効と考えます」といったご意見をいただきました。その他のプロジェクトも様々な理由とともに選択いただきました。これらのご意見は、全プロジェクトにお伝えさせていただきます。

そして、後半は、WEB上でも意見募集をしていた領域としての提言（案）について、来場者の方からのご意見も交え議論を行いました。「人への思いやりや、コミュニケーション能力を育む教育を根付かせる、ということを教育現場への提言として盛り込んでほしい」といった、提言内容についてのご意見の他、日本には、全国の犯罪被害状況を把握するための調査や、児童虐待に関する細かい

データがなく、こういう部分をしっかり押さえていかないと、科学的根拠に基づく犯罪の被害防止の取り組みにつながらないという、提言の背景にあるプロジェクト代表者からの問題提起もありました。

「誰に向けて提言するのかを明確に出来ないか」、「提言を発信しただけでは駄目で、伝わるものにしなければならない」「提言が7つもあると分散した印象を受ける」などのご意見もありました。誰向けかについては、1つの成果を複数の関与者に活用いただきたいというプロジェクト実施者の思いがあるため、短い提言の中にも含めることは難しい、提言の中にもあるように、あらゆる関与者が協働して子どもを犯罪から守ることが重要だろう、という領域側の意見もありました。

前号のメルマガでもお伝えしたとおり、提言は、当日のご意見、アンケートの声を踏まえ、最終的なものを作り上げ、後日、領域のWEBページに掲載する予定です。

終了後に回収したアンケートでは、「子どもの安全に向けての実効ある提言が数多くなされており、今後はいかにこれらの提言が体制化されていくかが肝要と感じた」、「プロジェクトの成果、提言を今後どう活かすかが課題だと思う。どう普及したか、継続しているかを確認するシステム（担当者）が必要と思う」、「提言は、どうアピールし、社会に知られるようになるかが大切。各省庁へのアプローチを強く行って下さい」など、成果の社会実装に向けたご意見を少なからずいただきました。

シンポジウム冒頭の挨拶の中で片山領域総括は、「これで犯罪からの子どもの安全に関わる問題の全てが解決したわけではありません。今回のシンポジウムが、新たな協働や、この問題を考えるスタートの場となれば幸いです。」と述べました。

そうです。成果や提言の社会実装に向けては、皆様との新たな協働が必要です。これからも是非、関係者の取り組みや成果の展開にご注目ください。

3連休初日の開催でありましたが、幅広いセクターより、150名以上の方にご来場いただきました。当日、会場に足を運んで下さった皆様をはじめ、これまで領域の活動を見守り支えて下さった皆様に、心から感謝申し上げます。

(領域担当)

4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

【更新情報】

●国の取り組み

総合的な子ども・子育て支援のための組織の在り方検討会議（内閣官房）

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomokosodate/index.html>

平成 24 年度「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体職員研修」に係る研修生の募集要項【締切：10月31日】(内閣府)
<http://www8.cao.go.jp/youth/bosyu/soudan/bosyu-6.html>

警察庁サイバーセキュリティ重点施策(警察庁)[PDF]
<http://www.npa.go.jp/keibi/biki3/20120906kouhou.pdf>

児童虐待の防止等に関する政策評価
<勧告に伴う政策への反映状況(回答)の概要>(総務省)
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/000061815.html

「青少年のインターネット・リテラシー指標」の公表(総務省)
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban08_02000092.html

「いじめ、学校安全等に関する総合的な取組方針」の策定(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shienshitsu/1325363.htm

平成 23 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/09/1325751.htm

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について【更新：第8次報告】(厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002jlaj.html>

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

● イベント情報

10月11日
子ども安全まちづくりパートナーズ
研究開発成果発表会「キックオフ・カンファレンス」
<http://kodomo-anzen.org/activitys/activityslist/784/>

11月2日-3日
日本安全教育学会第13回大阪大会 共感と協働を目指した安全教育の展開
<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~nmssc/jase/>
プロジェクト代表者が年次学会長を務めます。

11月28日-12月2日
第6回アジア地域セーフコミュニティ国際会議 in 豊島
<http://www.arcsc2012.com/jp/>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>

5. 編集後記

皆様、最後までご覧いただきまして、ありがとうございました。創刊号から読み返して見ると、新たなコーナーが新設されたり、領域関係者の方にも執筆頂いたりしながら、ここまで配信することが出来ました。

このメルマガは、3名の領域担当が主に執筆・編集していました。1名は立ち上げから最終号まで携わり、2名は途中で1度、入れ替わりがありました。毎月、レポートに何を取り上げるか、リード文で紹介すべきニュースはないか、どのコーナーも配信当日までギリギリの調整をし、試行錯誤しながら進めてきました。

読者の方々のお話をうかがうと、人によって関心のあるコーナーが違ったようです。ある方はリード文、ある方は国の取組みといった具合です。領域関係者の中には各プロジェクトの動向が気になるようで、領域・プロジェクト活動紹介を中心に読む、という方もいました。

では、領域担当にとって思い入れのあるコーナーや、メルマガへの想いは？ということ、ご紹介いたします。

担当は、1年間余りでしたが、毎月、試行錯誤の連続でした。どの号にも強い思い入れがありますが、特に vol.36（平成23年9月1日号）は、初めて配信に関わり情報を発信することの難しさを痛感するなど、印象に残っています（S.T.）。

メルマガを担当して3年半。日々何をする時も、一つでもお伝えできる情報はないかと目を皿のようにして見るのが習慣になってしまいました。メルマガ配信の終了を迎える今も未だに、道を歩いている時に地域の掲示板を見つけると、何か情報はないかと立ち止まってしまいます（M.W.）。

この4年間、単にセンセーショナルなニュースを取り上げるのではなく、この領域のメルマガとして、何をどう発信すべきか常に考えてきました。特に、リード文、レポート、キーワードの原稿ファイルは、毎回、変更履歴で埋め尽くされていました。それももう終わりかと思うと、ホッとするような、寂しいような…？（N.A.）。

「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン、いかがでしたでしょうか。これまでのメルマガに関するご感想やご意見がありましたら、是非、犯罪からの子どもの安全領域（c-info@anzen-kodomo.jp）までお寄せ下さい。

ありがとうございました。

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2012年9月28日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域 WEB サイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEB サイト <http://www.ristex.jp/>
